

# 目指せシニアのインスタグラマー



インスタグラムの投稿方法を確認し合う、秩父街物語案内人のメンバー＝5月28日、秩父市内

「目指すは、フォロワー(利用者)数1万人超えのインスタグラマー」。秩父市のシルバー人材センターに在籍する60～90代の市民8人は、高らかに宣言する。8人は秩父街物語案内人のユーザーネームで、4月から、写真共有アプリ「インスタグラム(インスタ)」を活用し、秩父札所34カ所や神社、イベント、季節の花など、秩父地域の観光情報を発信している。交流サイト(SNS)って何? フォロワーとは? シェアは?、頭に浮かぶ数々の疑問符を一つずつ解決させながら、黙々とスマートフォン画面操作にいきなり目まぐるしく。 (中野春夫)

## 60～90代が観光PR 秩父

### 操作の疑問、仲間と解決

秩父街物語案内人のメンバーは、稲垣利夫さん(92)、大野智 羽正子さん(64)。「案内本には恵子さん(78)、引間都千代さん(77)、勅使河原文子さん(76)、全国、世界に発信し、地域を盛り上げよう」。水野さんの呼びかけの下、秩父市出身の有志が集まった。

#### ■無料相談で学ぶ

メンバーは普段、シルバー人材センターのガイド班として、観光客に秩父の名所を案内している。最年長の稲垣さんは「札所の参拝客に秩父へ来た理由を尋ねたところ、『都会らしさもあり、田舎らしさもあるところが魅力』と返ってきた。どんなところが都会らしく、田舎らしいのか、私には分からなかった。市民でも知らない、気が付かない、秩父の魅力をもっと追求したい」と、メンバー入りを決意した。

結成前まで、SNS経験者は最年少の鳥羽さんのみ。全員スマホは持っているが、電話やメッセージ機能しか使っていない。鳥羽さんに指導を仰ぎ、鳥羽さんでも分からない操作は、地域交流施設「長若集学校」(小鹿野町)のパソコン無料相談に足を運ぶ。インスタ操作を学んだ。それが、メンバーとの間で交わされた約束だ。

鳥羽さんは「写真を撮って共有する『シェア』など、用語の説明が難しいが、みんなは普段(通信アプリの)ラインを使っている。操作のみ込みは早い」と話す。

#### ■息子と孫が感心

インスタへの投稿は、それぞれが好きな時間に行う。札所巡りのポイントや、散歩途中に見つけた花々、今日のランチなどをスマホで撮影し、文章を添えて「スマホ操作に強い人、撮影がうまい人、寺や神社の知識が豊富な人など、それぞれの得意分野を共有して運用している」と、誰一人欠かせない。鳥羽さんは説明する。

稲垣さんは「インスタを始めたいことで、地域外で暮らしている息子と孫に感心された」と笑顔を見せる。浅見さんは「ある程度の操作は分かっていたが、まだまだ字が書き部分は大変。『秩父街物語案内人』(chichibu-guide)のインスタフォロワー数は、5月20日現在114人。フォロワー1万人超えを達成させるため、今後も投稿と研究を重ねていく」と、メンバー一同は口をそろえた。

秩父市シルバー  
ガイド班  
大活躍！！



令和6年6月3日付  
埼玉新聞より